

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	有田町立曲川小学校
1 前年度 評価結果の概要	年間を通して、学校全体で本校の学校教育目標を改めて意識して取り組んできた。めざす児童像「たくましい子・自ら学ぶ子・心豊かな子」を職員・児童・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は大きな事故等がなく学校生活を送り、87%が学校を「楽しい・まあまあ楽しい」と感じている。また、地域の方の協力で数年間無事故で過ごしている。志を高める教育の1つとして陶芸教室等、地域人材を活用した体験学習に取り組んだ。学習面では、今年度から算数科を中心に、小中連携して学力向上を図っていく。心の教育の面では、いじめ防止や不登校児童対策として、SCやSSW、専門機関等と連携し、児童や保護者が相談しやすいように場の設定や情報提供等を充実していく。特別支援教育では、特別支援学校（巡回相談）の協力も得て児童理解に努めてきた。職員の働き方改革として、各自の意識高揚を図るとともに、誰もが働きやすい環境を整えていく。成果の上がった項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成に力を尽くしていきたい。

2 学校教育目標	心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	自分から自分で ～自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ児童の育成～
------------	----------------------------------

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者			
(1)共通評価項目													
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言				
●学力の向上	○授業力向上に取り組み、1時間1時間を大切にした分かりやすい授業実践	○各教科の基礎的・基本的な課題に対し、児童の正答率85%以上	B	・教師アンケート「分かりやすい授業の実践」で、肯定的な回答は100%であった。 ・前期市販テストの全校平均は82.2%であった。 ・今後も分かりやすい授業の実践や基本的な学習スタイルの習得に向けた取組を継続していく。	B	・児童アンケート「学校や家では、進んで勉強していますか」の項目で、肯定的な回答は84.1%であった。 ・教師アンケート「分かりやすい授業の実践」で、肯定的な回答は100%であった。 ・前期市販テストの全校平均は83.7%であった。 ・県からの小中連携による学力向上地域指定事業に全職員で取り組んだ。	A	・通知表の評価を親からも子供からもわかるように評価してほしい。	研究主任 学力向上コーディネーター				
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意した学級集団づくりに取り組み、Q-Uアンケートで要支援群5%以下にする。		B		・教師アンケート「『心のアンケート』やQ-Uアンケート等を生かした授業の実践」で肯定的な回答は94%であった。 ・前期のQ-Uテストの要支援群は1.9%(5名)であった。 ・10月に道徳の全校授業参観を行った。 ・心のアンケート等からは、友だちを傷つける言動がみられる。 ・学校教育全体で、継続して心の教育を推進していく。		A		・教師アンケート「『心のアンケート』やQ-Uアンケート等を生かした授業の実践」で肯定的な回答は100%であった。 ・後期のQ-Uアンケートの要支援群は2.3%(6名)であった。 ・児童アンケート「命を大切にし、思いやりの心をもって生活している」で肯定的な回答は96.4%であった。 ・保護者アンケート「学校では豊かな心の教育について、日頃から指導をしている」で肯定的な回答は85.2%であった。	B	・見守り隊で、朝児童に挨拶をするが無視されることがある。	人権・同和教育担当者 道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止や早期発見のための取り組みや事業対応において、組織的対応ができていると回答した教員90%以上				B				・教師アンケート「いじめ防止や早期発見のための取り組みや事業対応において、組織的対応ができているか」の項目で肯定的な回答は100%であった。 ・いじめ防止の職員研修を夏休みに行った。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行うことができる。		A	
●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	B	・教師アンケート「各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設けた」の項目で肯定的な回答は88.2%であった。 ・発達段階に応じ、出前授業を行うなど児童の視野を広める取組を行った。 ・キャリアパスポートの活用の工夫を継続していく。		B		・児童アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」で肯定的な回答91.8%、「将来の夢や目標を持っている」で肯定的な回答87.3%であった。 ・教師アンケート「各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設けた」の項目で肯定的な回答は89.4%であった。 ・今後も自分の夢や目標について考える時間の設定やキャリアパスポートの活用法について工夫をしていく。		B				

●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・安全に子どもたちが登校できるように、子ども見守り隊の方々に支援を依頼し、安全安心な環境づくりへの感謝の気持ちを子どもたちが持てるような場づくりを行う。 ・保護者や地域の方より通学路の情報を収集し、校区安全マップを見直す。 ・各学年の実態に応じて、交通ルールを守ることの大切さを全職員で指導する。	A	・児童の交通事故は0(ゼロ)である。 ・「交通安全やけがの防止等に関して、実践的な指導に取り組んだ」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・4月には、交通安全教室を実施し、児童に啓発を行った。 ・今後も、交通ルールを守ることの大切さを全職員で指導していく。	A	・児童の交通事故は0(ゼロ)である。 ・「交通安全やけがの防止等に関して、実践的な指導に取り組んだ」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・「学校は、子どもたちが安全に登下校したり、生活したりできるよう努めていると思うか」で肯定的な回答をした保護者は89.7%であった。 ・生活部の職員が中心となって、児童の安全面に関する注意喚起を行い、全職員で対応した。	A	・桜橋、黒川駅の所が送迎の車で危ない。	生徒指導主任 教頭
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」と回答した児童90%以上	・各学年で計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、食育授業を年1回以上実施する。	B	・教師アンケート「計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、食育の推進に取り組んだ」で肯定的な回答をした職員は88.2%であった。 ・今後も計画的に食育指導を行っていく。	A	・教師アンケート「計画的な食育指導を行い栄養教諭と連携し、児童の実態に応じた食育の推進に取り組んだ」で肯定的な回答は89.5%であった。 ・児童アンケート「健康に良い食事をしているか」の項目で、肯定的な回答をした児童は、96.1%であった。	A	・家での食事が偏っているのではないか。野菜を摂取しているのが判る機械があるので学校にも取り入れてはどうか。	食育担当 保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・管理職は、教職員の在校等時間の実態を正確に把握し、休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。 ・ICT支援員を積極的に活用し、動画教材の作成や、能率的なデータ管理・保管を行う。 ・デジタル教材の共有化、管理の徹底を行う。	B	・教師アンケート「時間外在校等時間の上限(月平均45時間以内)を遵守するために、勤務時間を意識した働き方や有効な時間活用をした」で肯定的な回答をした職員は76.5%であった。 ・4月～10月までの時間外在校等時間の月平均は約20時間である。個人差が大きい。 ・今後も業務の効率化を推進していく。	B	・教師アンケート「時間外在校等時間の上限(月平均45時間以内)を遵守するために、勤務時間を意識した働き方や有効な時間活用ができた。」の項目で、肯定的な回答は89.6%であった。 ・全職員の時間外在校等時間の平均(11月～1月)は、18時間であるが個人差が大きい。 ・今後も業務の効率化を推進していく。	B	・働き方改革をしても質を落とさないようにしてほしい。	管理職 事務主事
	○会議の開催方法の改善、時間短縮と内容の精選	○会議資料はなるべく電子化し、職員会議等の時間は1時間以内とする。	・部会での検討を十分に行之い、会議での検討内容を精選しておく。 ・職員フォルダに資料を事前に入れ、一読しておくことで協議の時間を確保する。	A	・教師アンケート「部会での検討を十分に行之い、会議での検討内容を精選した」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・会議資料はできるだけ電子化し、職員会議等の時間は、終了時刻を設定し、ほぼ1時間以内にできている。	A	・年間を通して、職員会議等の時間は1時間以内にできている。 ・授業実施時数を見ながら、児童の下校時刻を早めるなど職員の事務処理時間を確保するように努めている。	A		教務主任 各部会部長
●特別支援教育の充実	○特別な支援や配慮を要する児童に対する意識と教員の専門性の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と回答した教員80%以上	・夏季休業中に全職員を対象にした特別支援教育の研修を行う。 ・気になる子の共通理解の場を週1回の職員連絡会で設ける。また、特別支援教育コーディネータを中心とした支援会議を随時行い、児童の状況や対応の方策を話し合う。 ・必要に応じて特別支援学校と連携し、巡回相談を実施する。	B	・教師アンケート「特別支援に関する専門性が向上した」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・特別支援学級の授業を参観したり、気になる子の情報交換をしたりして、全職員で意識の向上を図った。 ・特別支援学校と連携し、巡回相談を実施した。	B	・教師アンケートで、「研修や気になる子の共通理解・支援会議等を通して、特別支援に関する専門性が向上したか」の項目で、肯定的な回答は89.5%であった。 ・特別支援教育コーディネータや教育相談担当を中心とした支援会議を随時行い、児童の状況や対応の方策を話し合った。 ・毎週職員連絡会で、特別支援コーディネータを中心に短時間の研修を続けた。	A	・今後とも、きめ細かい配慮をお願いしたい。	特別支援コーディネーター 教育相談担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT利活用の推進	○各教科等の授業や家庭学習における、学習用端末の積極的・効果的な活用	○「学校で1日1回は端末を使って学習した」と回答した3年生以上の児童80%以上	・職員研修等を通して、授業等における端末の効果的な活用方法を職員間で共有する。 ・原則として、土日は3年生以上の児童に端末を持ち帰らせる。	A	・教師アンケート「職員研修等を通して、授業等における端末の効果的な活用方法を職員間で共有した」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・学年に応じて、学習用端末を積極的に活用している。	A	・「学校で1日1回は端末を使って学習した」と回答した3年生以上の児童は87.9%であった。 ・教師アンケート「職員研修等を通して、授業等における端末の効果的な活用方法を職員間で共有した」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・今後も職員研修等で学んだ学習用端末の積極的・効果的な活用を、実践に活かすように努めていく。	A	・クロムブックはどんどん使ってほしい。	情報教育推進リーダー

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・今年度も年間を通して、学校全体で本校の学校教育目標を改めて意識して取り組んできた。めざす児童像「たくましい子・自ら学ぶ子・心豊かな子」を職員・児童・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は大きな事故等がなく学校生活を送り、90%が学校を「楽しい・まあまあ楽しい」と感じている。また、地域の方の協力で数年間無事故で過ごしている。志を高める教育の1つとして、陶芸教室等、地域人材を活用した体験学習に取り組んだ。学習面では、今年度から算教科を中心に、小中連携して学力向上を図っている。心の教育の面では、いじめ防止や不登校児童対策として、SCやSSW、専門機関等と連携し、児童や保護者が相談しやすいように場の設定や情報提供等を充実していく。特別支援教育では、特別支援学校(巡回相談)の協力も得て児童理解に努めてきた。職員の働き方改革として、各自の意識高揚を図るとともに、誰もが働きやすい環境を整えていく。成果の上がった項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成に力を尽くしていきたい。
----------------------	--